

第9回熊本大学沿岸域環境科学教育センター講演会「沿岸域環境科学の最先端—基礎研究から保全・再生・防災まで—」

2011年3月19日（土）、第9回熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター講演会を共催した。本拠点研究の研究班が共催した本年度の講演会では、当センター専任教員および客員教員を中心に、「沿岸域環境科学の最先端—基礎研究から保全・再生・防災まで—」のテーマの下に最新の成果が報告された。開催当日には、（独）港湾空港技術研究所所属である客員教員の2名が、講演会開催直前の3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震および津波被害」対応業務のため、やむなく講演資料のみの発表となりました。大災害の直後ではありましたが開催当日の参加記帳者は33名（講演者を除く）であり、講演会では学内外の研究者や一般市民のあいだで熱心な議論が交わされました。

第9回 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター講演会

会場：熊本大学工学部百周年記念館

熊本市黒髪2-39-1（熊本大学黒髪南地区）

○開会 13:00～13:05 挨拶 嶋田 純（沿岸域環境科学教育研究センター長）

○講演（講演25分、質疑5分）

- ・ 13:10～13:40 「沿岸海域環境再生への技術体系～有明・八代海を例として～」
滝川 清（水・地圏環境科学分野 教授）
- ・ 13:40～14:10 「熊本港沖での底泥輸送に関する現地観測」
中川 康之（沿岸域社会計画学分野 客員准教授）
- ・ 14:10～14:40 「音響システムによる有明海調査の紹介」
秋元 和實（水・地圏環境科学分野 准教授）
- ・ 14:40～15:00 休憩（20分）
- ・ 15:00～15:30 「有明海・八代海の生物多様性とその保全」
逸見 泰久（生物資源循環系解析学分野 教授）
- ・ 15:30～16:00 「塩生植物ハママツナの遺伝的多様性解析」
瀧尾 進（生物資源保全・開発学分野 教授）
- ・ 16:00～16:30 「八代海湾奥部における小型底生生物群集の季節変動とその要因」
嶋永 元裕（生物資源循環系解析学分野 准教授）
- ・ 16:30～17:00 「泥質干潟再生の重要性～シギの餌の観点から～」
桑江 朝比呂（沿岸域社会計画学分野 客員教授）

○閉会 17:00

○司会進行 滝川 清